

“技術士を目指し、共に迷い、共に歩み、報われる努力！”

第 19 期 PE 道場受講者の募集

技術者の技術力向上を目的に、PE（Professional Engineer 技術士）道場を平成 18 年度から実施し、その結果として、PE 道場から延べ **49 名**の技術士を輩出することができました。現在行っている第 18 期における筆記合格者は 3 名であり、口頭試験に向けて指導を行っているところです。

この受験講座は、技術士第二次試験の合格を**本気で**目指す技術者（建設会社、コンサルタント、公務員、年齢等は問いません。）を支援するために開講します。

<試験制度の概要> ※2019 年より試験の方法が変わりました。下の表のとおりです。

<筆記試験(総合技術監理部門を除く技術部門)>

試験科目	改正前 <～平成 30 年度>				改正後 <平成 31 (2019) 年度～>			
	問題の種類	試験方法	試験時間	配点	問題の種類	試験方法	試験時間	配点
必須科目	「技術部門」全般にわたる専門知識	択一式 20 問出題 15 問解答	1 時間 30 分	30 点	「技術部門」全般にわたる専門知識、応用能力、問題解決能力及び課題遂行能力に関するもの	記述式 出題数は 2 問程度 600 字詰用紙 3 枚以内	2 時間	40 点
選択科目	「選択科目」に関する専門知識及び応用能力	記述式 出題数は回答数の 2 倍程度 600 字詰用紙 4 枚以内	2 時間	40 点	「選択科目」についての専門知識及び応用能力に関するもの	記述式 出題数は回答数の 2 倍程度 600 字詰用紙 3 枚以内	3 時間	30 点
	「選択科目」に関する課題解決能力	記述式 出題数は 2 問程度 600 字詰用紙 3 枚以内	2 時間	40 点	「選択科目」についての問題解決能力及び課題遂行能力に関するもの	記述式 出題数は 2 問程度 600 字詰用紙 3 枚以内	30 分 ※選択科目の試験に 休憩時間はありま せん。	30 点

※総合技術監理部門については変更無し

主 催 : NPO 法人技術交流フォーラム

資 格 : 技術士第二次試験受験資格を有するもの
(一次試験合格者で資格要件に該当する実務経験を有する者)

“必ず合格してやる！”という思いを有するもの

2 回か 3 回目で合格すればいいと思いの方はご遠慮ください。

内 容 : 『総合技術監理部門を除く技術部門』を対象とし、以下の項目を実施します。

- ◆ オリエンテーション、経歴書の書き方、国土交通白書の見方
- ◆ 論文の書き方の基本、選択科目対策（論文作成とグループ討議）
 - ・実施予定期間は、11月～翌年7月までです。
 - ・受講者が決まり次第、11月にオリエンテーションを実施し、6月に模擬試験を行います。
 - ・論文添削指導は、グループ討議の他に、担当講師や受講生間とのメールなどにより、講師と受講生が納得のいくまで繰り返し実施する方法です。（添削回数：無制限）
- ◆ 受講生に沿った支援（2コース）をご用意しました。
 - ・Aコース（受験回数が複数回）：毎月1回（※第2土曜日）、計9回
 - ・Bコース（未経験者、希望者）：毎月2回（※第2・4土曜日）、計14回※別紙1「PE道場タイムスケジュール（案）」を参照して下さい。
※原則、第2と第4ですが、変わる場合があります。

指導者 : 技術士保有者から適宜依頼し、指導方針についての協議のうえ選定しております。

勉強日 : 土曜日（10：00～16：00）を想定しております。
詳細は、オリエンテーション時にご説明いたします。

場 所 : zoom によるリモートと佐賀市内の会場による対面です。スケジュールをご参照ください。

受講費 :

- ◆ Aコース（受験回数が複数回）：5万円（NPO 法人技術交流フォーラム会員及び賛助会員：3万円）
- ◆ Bコース（未経験者、希望者）：7万円（NPO 法人技術交流フォーラム会員及び賛助会員：4万円）

応 募 : 希望者は、11月15日(水) 17：00 までに、下記の連絡先にメールして下さい。
必要書類を返信します。

連絡先：研修委員長 福岡 仁

メール : fukuoka@sinwa-consultant.jp

Tel : 0952-32-1348 、 Fax : 0952-36-6681

((株)親和コンサルタント 佐賀市卸本町7番25号)

第1回の道場にて、小論文（1,200文字以内）を執筆していただきます。

この目的は、受講者の現状を講師陣が把握するためであり、円滑な支援を行うための基礎資料として活用します。そして、その結果から個別に受講コースなどの相談をさせていただくことがあります。

P E 道場タイムスケジュール (案)

別表-1.1 予定表 (オリエンテーション～筆記試験まで)

試験スケジュール		A コース	B コース
11 月		オリエンテーション (11/25) ※zoom リモート 第 1 回 (12/2) ※対面 📌 論文の書き方 (文章作法、骨子法など) 📌 講師との経歴について議論 (経歴書の書き方、経歴の棚卸し) など 📌 小論文作成 (1200 字)	
12 月		第 2 回 (12/16) ※zoom リモート 📌 経歴書に関する内容討議 📌 過去問題の傾向分析と勉強方法の確認、キーワード学習	第 2 '回 (12/23) ※zoom リモート 📌 経歴書に関する内容討議 📌 論文の書き方 (文章作法など)
1 月		第 3 回 (1/13) ※対面 📌 発想法 (マインドマップ、KJ 法) の習得、キーワード学習 📌 経歴書に関する内容討議 📌 専門 (基礎、応用) ① グループ討議	第 3 '回 (1/27) ※対面 📌 専門 (基礎、応用) ② グループ討議 📌 経歴書に関する内容討議 📌 発想法の実践
2 月		第 4 回 (2/10) ※zoom リモート 📌 専門 (基礎、応用) ③ グループ討議 📌 発想法から指定時間で書く練習① 📌 必須① グループ討議	第 4 '回 (2/24) ※zoom リモート 📌 専門 (基礎、応用) ④ グループ討議 📌 発想法→書く練習② 📌 必須② グループ討議
3 月		第 5 回 (3/9) ※対面 (モチベーション維持対策①) 📌 経験論文の最終チェック 📌 必須① グループ討議 📌 専門 (基礎、応用) ⑤ グループ討議 📌 発想法から指定時間で書く練習③	第 5 '回 (3/23) ※対面 📌 経験論文の最終チェック 📌 必須① グループ討議 📌 専門 (基礎、応用) ⑤ グループ討議 📌 発想法から指定時間で書く練習④
4 月	【受験申込受付期間】 4 月上旬より	第 6 回 (4/13) ※zoom リモート 📌 必須および専門 (課題解決) ① 論文の添削を踏まえたグループ討議および指導 📌 発想法から指定時間で書く練習⑤	第 6 '回 (4/27) ※zoom リモート 📌 必須および専門 (課題解決) ② 📌 論文構成の再チェック 📌 発想法から指定時間で書く練習⑥

別表-1.2 予定表（筆記試験～口頭試験まで）

	試験スケジュール	A コース	B コース
5 月		第 7 回（5/11）※対面（モチベーション維持対策②） 📌 必須および専門（課題解決）③ グループ討議 ・・・論文の添削を踏まえたグループ討議および指導	第 7'回（5/25）※対面 📌 必須および専門（課題解決）④ 📌 論文構成の再チェック
6 月		第 7 回（6/8）※対面（モチベーション維持対策③） 📌 模擬試験（筆記試験） ※本番と同じ時間割での想定問題を実施 第 8 回（6/22）※対面 📌 模擬試験に対するグループ討議 📌 試験当日まで2週間の過ごし方	
7 月	【筆記試験】 7 月 14 日（予想）		
8 月			
9 月			
10 月	筆記試験合格発表		
11 月		模擬試験（口頭試験）：合格者対象 📌 想定問答作成支援 📌 個別の模擬面接試験（2 回）	
12 月	口頭試験	< 質疑の情報共有 >	

※記載内容は予定であり、受講生のレベルや人数などにより、変更の可能性があります。

※添削指導は、PE 道場開始と同時に随時実施します。

※受講者は、筆記試験の結果を報告していただきます。また、二次試験合格者の方には合格体験記を提出していただきます。

PE 道場受講者 合格体験記

【佐賀県庁職員 N さん（54 歳）】（令和 2 年度合格）

平成 30 年度一次試験に合格後、二次試験に向けて過去問を解こうとしたものの、ほとんど何も書くことができませんでした。そのため、令和元年度二次試験の受験を見送り、独学でキーワード集や論文の作成を行っていましたが、手応えを感じることができないまま時間が経過していきました。そのような時、職場の先輩技術士の方々から PE 道場を勧められ、受講（B コース）することを決心しました。

振り返ってみて、PE 道場を受講して大変良かったと感じたことは、次の 3 点です。

- ・受験の心構え、勉強方法や論文の書き方、二次試験分析、最新技術の情報が詳細・豊富に提供されること
- ・受講生がやる気を持って求めれば、講師の先生方が無制限・丁寧な指導で応えていただけること
- ・同じ志を持つ受講生と切磋琢磨でき、モチベーションの維持・向上につながる

実務経験証明書や論文は、PE 道場受講により、独学時と比べ形式・内容ともに全く違う形に“進化”することができました。PE 道場受講がなければ、今回合格はなかったと感じています。二次試験合格に必要な多くの気付きをご教示いただいた講師の先生方に深く感謝申し上げます。

【長崎県内の建設コンサルタント技術者 F さん（40 歳）】（令和 3 年度合格）

私が PE 道場に参加するようになったのは 2018 年からでした。2021 年度で合格するまでに 4 期お世話になり、建設部門：河川、砂防及び海岸海洋を受験し続けました。PE 道場に参加したきっかけは、グループ会社の方からの紹介でした。「河川砂防」自体の受験は、受験が可能となった 2012 年から毎年受け続けており、実に 10 度目のチャレンジで合格できたことになります。PE 道場に参加するまでの 6 回の受験は、正直、勉強という勉強はほとんどせず、時期が来たら惰性で受けるいわゆる“記念受験”が続いていました。必須科目が選択問題だったことから、選択問題の勉強だけをやって、受験対策をしたつもりでいました。6 回の受験で何ら手ごたえがなく、先輩から言われていた「日々の仕事をきちんとやって、問題に恵まれれば、そのうち受かる。」は、自分にとっては違うのだろうと気づき始めた時期でした。PE 道場 1 年目は「途中でリタイヤする人が多い」と聞いていた通り、精神的にかなりつらかった記憶があります。私が何とかやれてこられたのは、技術士を志す仲間がいたことが大きかったと感じます。特に河川砂防を受験する仲間は、2 年目、3 年目、4 年目と常にいたことで、PE 道場以外の時間も、情報のやり取り等、切磋琢磨できる環境ができあがっていたことが、私が、めげずに続けられた大きな要因です。合格できたことについては、PE 道場で培った以下のことがあります。

- ・講師の方々から、最新の情報をいただけたこと
- ・講師の方々からの添削+補足情報
- ・論文読み合わせでの、ロジックの組み立て方への指摘
- ・他の受講生の論文を読むことでの言い回しの拝借

私の勉強法を少し紹介します。

- ・基本的には PE 道場で言われたことをやる。
- ・PC で情報を管理し。最終年度は Windows の OneNote、OneDrive を利用。PC、スマホ、タブレットどれでも確認できるのでお勧めです。
- ・その中で重要と感じたものはノートにまとめる。（毎年 3 冊くらい作成）
- ・その他、付箋を使って、部屋の壁に重要ワードを貼って、常に見るよう心掛ける。
- ・論文は基本的に 60 点をもらえるまで修正、添削をお願いしました。3 年目までにある程度書くスピード

は身についたので、最終年度は全て PC で論文を作成しました。(手書きよりも管理が楽です。)

・マインドマップはテーマごとに作成、何度も修正し、頭に入れ込む。

合格できた 2021 年の試験の時の感想を紹介します。

【問題Ⅰ】廃棄物問題と豪雨災害の 2 択。環境系の問題は直前まで準備していましたが、廃棄物に特化した問題で出された場合、全く書ける自信がありませんでした。問題をサッとみて、災害の問題を解くことを決めました。25 分かけて丁寧に骨子作成。PE 道場での成果を存分に発揮できたと思います。講師の方から注意されていた“問題Ⅲとの差別化”を意識しました。河川砂防分野と大きく内容がかぶりますので、河川の話題を極力消して、都市計画や道路の話題を多めに入れこんで論文を書きました。具体的には、「流域治水」という最重要キーワードを使いませんでした。(というのも、PE 2 年目で不合格となった年に問題ⅠとⅢが同じような豪雨災害のテーマで出題され、ほぼ同じことを書いてしまった経験があり、不合格となった経験があったからです。)

【問題Ⅱ-1 (2 番目に解答)】全体を見て、「河川を勉強しておくべきだった」と、後悔しました。私の専門である砂防分野からは、過去に出題されたことのない砂防の専門的な問題が出ました。完全にノーマークで合格レベルの論文を作ることは無理だと判断しました。結果、悩んで、ダム再生を選択しました。これは、2 年前くらいにメンバーの方が作られた論文をなんとなく記憶していたことから、記憶を絞り出して解答しました。

【問題Ⅱ-2 (1 番目に解答)】維持管理問題が想定通り出題されました。もう 1 問の「被害想定区域の設定」も書けそうな内容でしたが、維持管理を選択しました。PE 模試通りの内容でしたので、問題なく解くことができました。ただ、PE 模試でもスムーズに書けていたことから、最後の復習をしておらず、少しつまづきながら解答した次第です。想定通り 1 時間程度で書き終えました。

【問題Ⅲ (3 番目に解答)】問題を見た瞬間、“やばいなあ”と焦りを感じました。問題内容は「建設 DX」と「地震被害のセンシング技術」でした。後者はさっぱりわからないので、「建設 DX」を解くしかありませんでした。ここで、“今年度の重要テーマである「建設 DX」は問題Ⅰ、Ⅱ-2、Ⅲ、それぞれでかける準備をしておくことが大事」と言われた講師の言葉を思い出しますが、後の祭です。問題Ⅰでしか準備していなかった自分を恥じます。とりあえず、準備してきたことを書き出し、骨子を作成します。焦ってしまい、(2) の解決策を 3 つ示せを見逃していました。3 枚を埋めるため、解決策を 4 つ提示してしまう始末です。A 判定をもらえたことが不思議なくらいでした。ただ、昨年度 7 行残しで B 判定だったことから、とにかく埋めることが重要と思っていました。(講師からの 7 行あれば 1 テーマ書ける、という言葉が忘れられません。)<試験全体の感想>

問題ⅠとⅡ-2 は手ごたえあり。Ⅱ-1 とⅢは手ごたえなし。来年に向けて勉強しなきゃと思っていました。合格できたことは、採点者に恵まれたのではないかと思います。

【長崎県内の建設コンサルタント技術者(経営者) K さん (39 歳)】(令和 3 年度合格)

【受験と PE 道場入門の動機】私が技術士を目指した動機は、社会の中で評価されるために、より大きな力で社会に貢献する必要があると考えたからです。会社というのは今後も安定して現在の価値を有しているわけではない。数年後には無くなるというリスクを常に抱えており、社内だけに止まらず広い建設業というフィールド全体で有用な人材になる必要があると考えていました。また、私はせっかちなので、より早く、より大きな力で活躍したい。地域を代表するプロジェクトで中核的な役割を果たしたいという欲求が常にあり、合格するまでの所要時間を買う、という考えで PE 道場に申し込みました。

【必要な量の努力を行うための対策】技術士試験合格に必要な量の努力を行うことは、私たち現場の一線で働く技術者の難関となっています。多くの技術者と同様に、私も春は比較的業務量が落ち着いていますが、

梅雨等の雨季から災害対策の業務に忙殺され、そのまま繁忙期の年末・年度末に突入するというパターンを入社以来繰り返してきました。しかし、いくら効率的な勉強方法であったとしても、その絶対量が少なければ効果は限られるため勉強量を増やすための対策として以下を行いました。

【勉強時間のルールを守る】例えば土日は 48 時間の休みで、土曜に 14 時間、日曜日は 6 時間勉強する。平日は寝る前に 5～30 分家族との時間を作り、それ以外の時間は勉強する。このようなルールは、常に完全に守ることはできないかもしれませんが、自分を勉強へと向かわせてくれる力があり、勉強時間増加に有効でした。

【完成した論文を繰り返し聞く】私たちの生活には風呂に入る、歯を磨く、移動する等、多くの隙間時間が発生します。私はその時間を有効活用できないかと考えました。そこで、一定程度の質に達した論文を自分で朗読し、スマホのボイスレコーダーで録音しました。そしてそれを移動や作業の最中に、繰り返し「ながら聴き」という工夫を行いました。これは、もちろん論文のインプットにも役に立つかもしれませんが、効果はそれだけでなく、繁忙期に新たな論文作成等の腰を据えた勉強に取り組めない時でも、勉強のスイッチが完全なオフにならず勉強の再開がスムーズになりました。

【論文の添削を積極的に受ける】PE で受講する間、私が作成した論文を複数の講師の方々が添削してくださりました。講師の皆様の熱量は凄まじく、添削のレスポンスが非常に早いため私も追い立てられるように論文を作成し続けました。試験を受ける私ではなく、指導者がこれだけの熱量で指導してくださったため、受講する側が負けてなるものかという思いもありました。結果として多くの論文を作成することができ、ご指導を通して生まれるコミュニケーションのおかげで、頭の中は常に技術士試験のことを意識する状態となり、勉強のサイクルが途切れなかったことは、勉強量確保の大きな要因となりました。

【試験を受け続けること】私は PE 道場に通い始めて 2 年目で無事試験を通過することができました。1 年目は午前中の I [必須] で僅か 1 点不足し、不合格でした。継続は力なりと言いますが、不合格の後も勉強を継続した甲斐もあり、次年度の試験では十分な見直し時間が生まれる試験とすることができ、無事合格しました。もちろん一度で合格することが理想なのですが、努力を継続することで常に合格へ向けて前進することができるのも技術士試験の特性だと考えます。受け続けることで、自分と相性が良い問題が出題される年に巡り合う可能性もあるのだらうと考えます。

【論文の質を上げるための対策】勉強量を増やすだけでなく、その中で常に論文の質を上げることを意識して学習に取り組まなければ合格までの道のりは非常に長いものとなります。私は PE 道場でご指導を受ける中で以下を意識し、論文の質を向上させてきました。

【論文の添削を積極的に受ける】勉強量増加と同じ対策になります。合格する論文を理解するためには、数多くの合格レベルに達した論文に触れることが重要だと考えています。理想は合格レベルの論文を、多数自分で作成するという事です。私は幸いにも PE 道場でご指導いただいていたので、数多くの論文を添削していただき、一定程度の質に達した論文を作成することができました。技術士試験の難しいところは『知識』を蓄えアウトプットできるようになれば受かる試験ではなく、技術士としてふさわしい『考え方』をアウトプットできるようになれば受かる試験ということです。二度三度と論文を修正、添削していただく中で、技術士である講師の皆様から『考え方』を学べたことは、今振り返れば非常に有意義な取り組みでした。

【繰り返し問題文を読む】私が論文を作成していた時、講師の皆様から問題文の題意とズレが発生しているというご指摘を度々いただきました。例えば問題文の前書きに地球温暖化等のことについて述べていれば、課題抽出や技術的提案はそれに沿ったものとする必要があります。一見当たり前のことなのですが、夜中に一人で論文を繰り返し修正しているときは視野が狭くなり、問題文と自分の論文にズレが発生していました。対策として非常に有効だったのが、講師に教えていただいた問題文のキーワードにアンダーラインを引き、回答中に繰り返し問題文を振り返って読むことです。試験中はもちろん普段の学習中も、じっくり問題文を

繰り返し読んでいた暇はありません。しかしアンダーラインのおかげで時間をかけずに題意とのズレが生じていないか、何度も確認しながら論文を書き進めることができ、質の向上に繋がりました。

【Ⅰ[必須]とⅢ[課題解決]の違いを意識する】私は応用理学部門の地質科目で受験しましたが、建設部門やその他の部門でも、ⅠとⅢで似たような論文になりやすい傾向にあると考えます。いずれの問題も、多角的・多面的・多様な視点で課題を抽出し、技術的な解決策を述べることを求められますが、求められる回答の違いを意識するように心がけました。Ⅰ[必須]は地質だけでなく応用理学受験者全員が解く問題なので、地質だけでなく地球物理や化学にも共通する、広い視点で課題抽出や解決策の提示が必要でした。一方、Ⅲ[課題解決]は地質科目の一問題であることを考慮すれば、地質の専門性により焦点を当てた課題抽出や解決策を述べる必要があります。これが建設部門であれば、Ⅰ[必須]では道路や都市計画、砂防といった建設部門全体の広い視点を持ちます。Ⅲ[課題解決]では専門分野の技術を深く掘り下げた内容とするように工夫し、Ⅰ[必須]とⅢ[課題解決]の違いを明確にしました。

【最後に】私は今、P E 道場に通い始める前の論文と、令和 3 年度技術士試験の再現論文と見比べ、入門して本当に良かったと感じています。P E 道場のおかげで技術士になるという目標を、試験を受け始めて 3 年、道場に通い始めて 2 年で達成できました。最後に、P E 道場の存在をご教示いただき、お声がけいただいた古江様。そして、面識やお付き合いがあったわけでもないのに入門を快諾いただいた P E 道場の皆様。業務がお忙しい中、熱心に指導してくださり、激励の言葉を最後までかけていただいた講師の皆様。心からの感謝を申し上げます。誠にありがとうございました。このご縁を大切に、今後も皆様と良いお付き合いが続きますよう、研鑽を継続すると共に後進の指導を行う等、より公益に資することができる技術者を目指します。

【佐賀県内の団体職員 Ⅰさん(46歳)】(令和4年度合格)

数年前から二次試験を受けないと思いつつ、実務経験証明書の書き方が分からず断念しておりました。昨年、会社から「PE 道場を受講して、二次試験を受けてみないか」と声をかけていただき、受講することにしました。

最初は課題と問題点の違いが分からないところから始めたため、実務経験証明書、論文ともに多くのご指導・ご助言をいただきました。毎回こんなに落ち込むことがあるのかと思うほど落ち込みましたが、今のレベルを超えないと試験には合格できないと思って論文の修正と新しい課題に打ち込む日々でした。おかげで、色々な考え方、論文構成、論文を回答する順番などを学ぶことができました。また、PE 道場には他の受験生がいるのでそれが刺激となり、モチベーションを保つことができましたと思います。

論文試験では、正直落ちたと思いました。Ⅰについては時間の余裕もあり、想定どおりに回答できました。しかし、Ⅲについてはある程度書きましたが、誤字もあり、回答内容が自分的に微妙でした。Ⅱについては時間が足りず、納得のいくレベルではありませんでしたが、空白を埋めるために必死に書きました。そのような出来でしたので、合格発表の日は嫌々確認しました。

このように本人の認識とは全く違うパターンもありますので、どんな出来でも論文の復元だけは必ずすることをお勧めします。

まさか口頭試験にすすむと思っていたなかったので、口頭試験の準備は全くしていませんでした。不安がつのりますが、時間の猶予は1カ月程度しかありません。そこからはバタバタと口頭試験の準備を行いました。模擬口頭試験を複数回講師の先生方にしていただき、内容の修正、目の動き、無駄に動かしてしまう手など、指導を受けました。

当日は緊張しましたが、模擬試験での指摘を思い出し口頭試験を受けた結果、無事に合格することができました。

最後に、PE 道場を受けていなければ合格することはできなかったと思います。色々、ご指導をいただきました講師の先生方に深く感謝申し上げます。そして、受験される皆様、勉強する中で気分が下がることもあるかと思いますが、皆が通る道ですので、前を向いて頑張ってください。